

佐賀大学広報誌 **かちがらす**

特集 「佐賀学」の拠点

地域学歴史文化研究センター

活躍するOB

佐大学生ベンチャーの先駆者 菅谷俊二さん

キャンパスから飛び出した教室!

はちがめサテライト教室

夢の光を用いた技術開発と人材育成

シンクロトロン光応用研究センター

医食同源プロジェクト

リフレッシュ理科教室



センター四部門の紹介

考古学研究部門

併任教授 佐田 茂

(文化教育学部)

古代における大陸との交流の重要な拠点でもあつた肥前の地において、どのような文化交流がなされ、受容、定着していったのか、考古学の視点から説明していきます。

また、考古学データベースの準備をすすめています。

地域史・史料学研究部門

併任助教授 飯塚 一幸

(文化教育学部)

併任助教授 石川亮太(経済学部)

専任講師 伊藤昭弘

佐賀は古代中世以来、歴史性豊かな地域で、幕末・明治期には日本の近代化に大きな役割を果たしました。本部門はこうした佐賀地域の歴史研究と、史料の調査・整理、学外への研究成果公開を主な目的としています。

具体的な事業の一つとして、現在、伊万里市の山本家文書の近世から近代文書約5千点の史料整理と目録作りを、大学院生や市民の方も参加してのワークショップによってすすめています。

国文・文献学研究部門

併任教授 井上敏幸

(文化教育学部)

近世佐賀においては、藩士や僧侶達が支えた風雅の道や庶民が支えた文化が栄えていました。また佐賀大学蔵「市場コレクション」の扇面・和書類は近世の思想・文学・地域歴史文化資料として重要で、その目録づくり・公開の準備をしています。

洋学・思想史研究部門

専任教授 青木歳幸

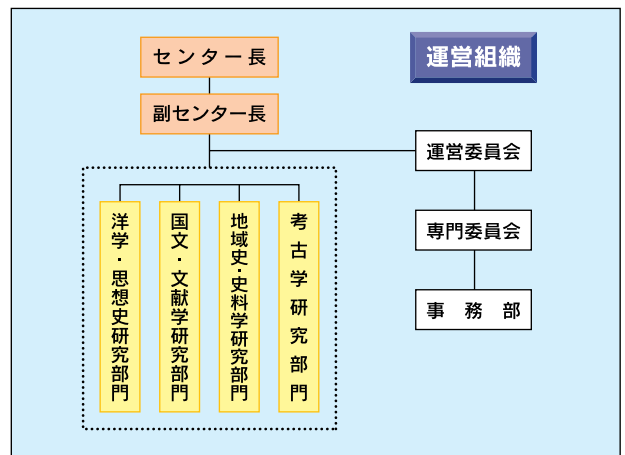
西洋近代文明の受容の起点である佐賀において、洋学がどのように佐賀の歴史文化・近代化に関わり、佐賀の地域的特性はなんであつたかを、小堀鍋島文庫や共同研究プロジェクトによる洋学資料調査研究により説明していきます。

センター施設を利用するには？

一階展示室では、佐賀大学所蔵資料を中心に期間展示を行います(入場無料)。隣の一階閲覧室では、学術書・郷土資料図書を閲覧できます。開館時間は午前10時から午後5時まで、祝日・土・日曜日は休館の予定です。



伊万里市山本家文書を整理しているワークショップ。院生・市民が加わる。



主な事業展示(18年度)

開館記念式典・講演会(入場無料)

期日：平成18年10月6日 14:00

場所：佐賀大学理工学部6号館

多目的室

講師：所理喜夫(地方史研究協議会会長)

テーマ：「地域学と地方史研究」

17世紀の佐賀地方を事例として
講師：松田清京都大学大学院教授

テーマ：「海軍創設からバリエーション」
蘭学者佐野常民の軌跡

開館記念共同企画展(入場無料)

期日：平成18年10月14日～11月12日

場所：小城市立歴史資料館企画展示室

テーマ：「成り立ちの小城藩と藩主たち」

主な展示資料：
柳生新陰流兵法書・小城鍋島家
什器、八重一重絵図など

「来てみんしゃい！佐賀大学へ」展示

期日：平成18年10月6日～11月5日

場所：地域学歴史文化研究センター展示室

主な展示資料：葉隠写本、佐高資料
(入場無料)

佐賀新聞市民講座

期間：10月～2月

(隔週土曜日、各回13時30分～15時30分)

場所：佐賀新聞社5階(30人ほど予定)

テーマ：「再発見！新版佐賀の歴史と文化」

開館記念第一回講演会

期日：平成19年1月28日

場所：本学

講師：ピクストンマンチェスター大学教授
テーマ：「医療と近代化」

「佐賀学」

の拠点

地域学歴史文化研究センター

センターの設立趣旨・経過について

地域学歴史文化研究センター

センター長 宮島 敬一

21世紀社会には新たな学問体系が求められています。佐賀は19世紀後半、近代西欧文明・学問体系を先進受容しました。それがどのような歴史文化を基盤としたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題です。本センターは、地域（佐賀）の歴史文化の固有性と普遍性を探究し、新たな学問体系としての地域学を創造します。

2年間の文系基礎学プロジェクトの活動成果を踏まえ、考古学、地域史・史料学、国文・文献学、洋学・思想史

正門から並木道をまっすぐ進むと、洋館につきあたる。佐大唯一の洋風木造建築として新たなシンボルとなるこの洋館は、10月6日に開館した佐賀大学地域学歴史文化研究センターの建物である。大正15（1926）年に本キャンパス近くの佐賀市精町に建てられた旧制佐高外国人教師公舎を復元したものである。

の四研究部門に専任・兼任教員を置いて、地域住民・市民と大学との地域連携の学術センターとして、本年4月に地域学歴史文化研究センターが発足しました。



大正15年に外国人教師公舎前で撮影
ドイツ語教師プレントツェル先生
(後列中央)とその家族



地域学歴史文化研究センター（旧制佐高外国人教師公舎）

佐大学生ベンチャーの先

～在学中に、インターネット分野の最高賞である「孫正義賞」を受賞～

私は、1996年に佐賀大学農学部に入
学し、大学在学中に株式会社オプティム
(<http://www.optim.co.jp>)というIT技術
やITサービス開発を主たる事業とする
IT企業を起業し、現在も、その代表を務
めております。(大学は留年を重ねて、7
年半にわたる猛勉強の末、先生方の手厚
いご指導により2003年に卒業)

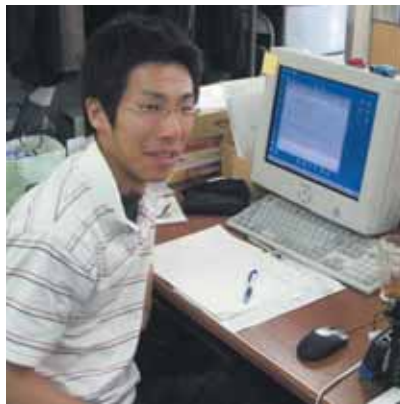
オプティムは、“Optimism(楽観主義)”×“Optimum(最適)”の二つを掛け
合わせて、私が作った造語です。楽観的
と思われるほどの大きな夢を持ちなが
ら、ただし、最適な戦略を実行し、最適な
製品・サービスを顧客に届ける企業にな
るという律がこめられています。

事業の内容としては1)インターネット
広告事業 2)ラーニング事業 3)
セキュリティ事業 4)サポート事業の
4つの事業を展開しております。特に、
現在急成長をしている事業が「4)サ
ポート事業」です。

現在、インターネットが急速に普及し
ているため、これまでパソコンなどに余
り触れることのなかった方々のイン
ターネット利用が急速に拡大してきて
います。

インターネットに関するサービスを
提供している企業側は、こういったいわ
ゆるインターネット初心者の方々にイン
ターネットを利用して頂いて非常に
嬉しい反面、企業側がお客様のサポート
にかかるコストが急速に膨らんでい
っているのが現状です。

そこで、我々の提供するソフトウェア



2005年度佐賀大学理工学部卒業、2006年
度入社の谷口玄太さん。現在、革命的なメー
ラーを研究開発中。

「e-Support」を利用すると、お客様は、ワ
ンクリックで全ての環境がインター
ネットに自動的に設定され簡単に接続
でき、また、パソコンを使っていてトラ
ブルが発生した場合でも自動的にパソ
コンの中身を「e-Support」がくまなく診
断して、トラブルを修復してくれるとい
うソフトです。

これにより、企業側のサポートにかか
るコストを、大幅に下げることができる
というソフトウェアです。

今後、ホームネットワークなどが進む
中、ネットワーク環境は、複雑化する一
方で、それに比例し、企業のサポートコ
ストは増大を続ける一方です。

これらの問題を解消するために、なく
てはならないソフトウェアと確信して
います。

大きな提供先としては、NTT東日本
に採用されました。NTT東日本が提供
するインターネットサービス「フレッ
ツ」にご加入の全ユーザに弊社のソフト
ウェアが配布されます。

これにより、「e-Support」は日本で最
も利用されるソフトウェアの一つにな

2005年度佐賀大学理工学部卒業、2006
年度入社の馬場敬尚さん。現在、画期的な
モバイルラーニングツールを開発中。



ります。

現在は、海外の通信キャリアとの交渉
を進めています。いずれは、世界のデ
ファクトスタンダードとなるソフト
ウェアに出来ればと奮闘中です。(英会
話は、まだ勉強中ですが...)

今後も、ITのイノベーションを実現
する研究開発に取り組んでいきます。

後輩の皆さんに是非、お伝えをし、お
願いたいことは、将来就職するにあ
たり「楽しめる仕事を選ぶ！」というこ
とです。

私は、会社の名前に楽観主義とつける
ぐらいのスーパーノーマン人間なの
で、仕事が楽しくて仕方がないです。
このことは、大変幸福なことと思っ
ています。(もちろん、それは、スタッフ、顧客、
支援者の方々に恵まれているからに他
なりません。)

仕事で成功するかどうかの決定的な



OPTiM “Optimism(楽観主義)”×“Optimum(最適)”

駆者



開発を終えて、開発スタッフ皆で記念写真

Syunji SUGAYA

株式会社オプティム
代表取締役社長
すが や しゅん じ
菅 谷 俊 二 さん

違いは「仕事を楽しめているかどうか」にあると感じています。

趣味でもそうですが、仕事も「楽しい」から「がんばれます」。「がんばれる」と「うまくなる」ので「周りからも評価されます」。「評価される」と「自信がつきます」。「自信がつく」と更に「楽しく」なります。

このような好スパイラルに自分を置くか、もしくは、「楽しくない」から「がんばれない」。「がんばれない」から、「うまくなれない」。「うまくなれない」から「評価されない」。「評価されない」から「自信がつかない」…の負のスパイラルに入るか、どちらになるかを決めるのは、「好きな(好きになれる)仕事を選ぶ」ということに尽きます。

どちらのスパイラルに入るかで社会に出て5年後には、大きな差となって現れてきます。

ただし、「好きな仕事」というのは、人気がある可能性が高いので、その仕事を勝ち取るには、好きな異性と付き合うのと同様に相応の努力をしなければなりません。

へたをしたら(?)意識のある時間(起きてる時間)では、将来の伴侶よりも多くの時間、仕事をするので、是非、気合を入れて探してください。(私もまだ、独身なので、偉そうなことは言えませんが…)

そして、今、「夢」がある人は、もし、本当にその「夢」を実現させたいのであれば、あきらめないでください。

夢を見ることは誰にでもできます。また夢を見ている自分に酔うことも容易いことです。

実現に向けて行動し、あらゆる困難に遭遇しても、「夢を見続け」努力し、あきらめなければ、その夢が、あきらめきれないほどの夢であれば、必ずその夢は実

現されます。

私達も、OPTiM が世界の人々に大きく役に立つ企業になるという「夢」をあきらめずに邁進します。

最後に、後輩の皆さんへ(先輩方も、もちろんですが!)宣伝させてください!
m(_ _)m

OPTiM では、現在、事業拡大のため、佐賀大学の優秀な学生を正社員、アルバイトで大募集中です。特に、理工学部の皆さんで簡単なプログラミング経験がある方、大歓迎です。学生アルバイトであれば、時給 850 円以上。来年度新卒であれば、詳細をホームページでご覧頂き是非、応募してください!一緒に仕事を楽しみましょう!!

興味がおありの方は是非、株式会社オプティム 人事採用担当 白田 (hakuta@optim.co.jp)までご連絡ください。



学 長 賞 受 賞



医学部 卓球部
代表者 一番ヶ瀬 優佳 他21名

第57回西日本医科学生
総合体育大会
優勝

この度は学長賞という大変名誉ある賞をいただき、有難うございました。
私たち医学部卓球部の部活は、鍋島キャンパスの体育館で週三回行われています。勉強等の合間を縫っての練習は厳しいものですが、その中で練習を継続できたこと、さらに団体戦優勝という結果を残せたこと、周囲の方々の支えがあったからこそだと思います。今後、練習に励んでいきたいと思っておりますので、応援の程よろしくお願い致します。



医学部 女子バレーボール部
代表者 山田 春奈 他21名

第57回西日本医科学生
総合体育大会
優勝

今回は前回の表彰に引き続き学長賞をいただくことができ、とても嬉しく思っています。勉強と部活との両立は、とても大変で、部活をする時間も週に3回となかなか厳しい環境ですが、部員一同毎回の練習を一生懸命頑張れた結果だと思います。これからの少ない時間で出来ることをやって、時間を有効に使い、大会では二連覇、三連覇とできるように佐賀大学医学部バレーボール部一同チーム一丸となり、精一杯頑張っていきたいと思っております。



医学部 弓道部
萩原 優子

第57回西日本医科学生
総合体育大会
女子個人戦 優勝

この度は学長賞という名誉ある賞を頂きましたことを大変嬉しく思います。このような結果が残せたのは、ひこえに熱心に指導して頂いた先生や先輩方のおかげです。本当に有難うございました。私たちが弓道部、学業と両立させながら部員一同切磋琢磨しております。この賞を励みとし、佐賀大学の学生として誇りをもって、これからも更なる好成績を残せるよう努力していきたいと思っております。



医学部 ポート部
伊藤 なつみ

第57回西日本医科学生総合体育大会
女子シングルスカル部門
優勝

学長賞という栄えある賞をいただき、大変嬉しく思っています。西医体優勝ということですが、実は、女子シングルスカルが、女子ダブルスカルとレースをしました。その結果、大差をつけてゴール。私が受賞してよかったのだろうかと思いましたが、ここをスタートとして、次はインカレ、国体など全国の大会で上位入賞を目指したいと思っております。学長賞に見合う実績を今後も残していきたいです。



医学部 弓道部
小野 慎子

第57回西日本医科学生
総合体育大会
最優秀射技賞 女子

この度は名誉ある賞を頂きまして大変光栄に存じております。現役最後の西日本医科学生総合体育大会は、私にとってかけがえのない素晴らしい思い出となりました。受賞にあたり、これまで私を支えて指導してくださった先生方や先輩方、応援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。思うように弓が引けずつらい思いをした時期もありましたが、私は弓道にめぐり合えて本当に幸せでした。これからも弓を楽しんでいきたいと思っております。

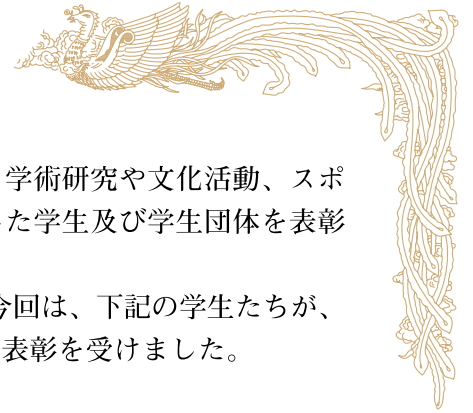


医学部 空手部
大家 千佳

第5回桜花女子大会
茶帯型
最優秀賞

この度、学長賞を頂き、大変嬉しく思っております。このような賞を頂いたのは、一人の力では決してなく、監督やOB、周りの部員皆が一丸となって頑張った結果です。確かに空手は、試合に出る時は人です。しかし、部活という集団の中で共に切磋琢磨することで、各々が上達していきます。これまでに支えて下さった皆様に感謝すると共に、自分自身もまた、周囲を支え、高めあっていけるよう頑張っていきたいと思います。

者の紹介



学生表彰授与式(平成18年5月31日)

佐賀大学では、学術研究や文化活動、スポーツなどで活躍した学生及び学生団体を表彰しています。

第6回目となる今回は、下記の学生たちが、長谷川照学長から表彰を受けました。




農学部 少林寺拳法部
川下 宣久

第36回少林寺拳法全九州学生大会
男子単独演武段外の部 最優秀賞

少林寺拳法部という怪しげな部活に入部して一年が経ち、その成果なのか学長賞を頂くことができました。これも先輩方のおかげです。

表彰式のため、はじめて学長室にはいりましたが、入学式でしかお顔を拝見したことのない学長からじきに表彰状をいただき、また、学長室の絨毯のふかふかさは感激しました！次は、10月の全国大会に向けてがんばります。



工学系研究科
淵上 貴由樹

綿屋 康生 佐久間 絵莉
中村 寛子 石元 宏明

2005年度日本建築学会設計競技
佳作

この度、学長賞をいただきありがとうございます。私たちが全国入選した日本建築学会設計競技は、ある課題に対して全国の建築系の学生が魅力ある設計案を提案し競うというものです。課題内容は「風景を建築で構想する」というもので、私たちはなじみのある佐賀平野の田園風景をテーマにしました。なかなか意見がまとまらず、徹夜が続く事もありましたが、このような評価にながりに大きな励みになりました。今後このような活動を積極的に行いたいと思います。



工学系研究科
山海 陽一郎

平成17年度第58回電気関係学会
九州支部連合大会
連合大会講演奨励賞

私の研究は平成16、17年度佐賀大学学長経費の補助を受けて行われました。補助のおかげで多くの学会、シンポジウム等で発表を行うことができ、講演奨励賞を頂くことができました。

さらに、その成果が称えられ学長賞という素晴らしい賞を受賞できましたことを大変嬉しく思います。これらの賞を受賞できたのは一人の力だけではなく、教授を始め多くの方々に支えられたおかげです。これを励みに研究、大学生活に取り組んでいきたいと思えます。





光電子分光実験をしている、左から鎌田教授と北島聡一さん(院1年)、早川朋宏さん(理工4年)



実験装置の組立てをしている、左から狭間康彰さん(院2年)、高橋和敏講師、杉山陽栄研究員

—シンクロトロン光利用による世界的な研究教育の拠点と自治体との連携による知的センターを目指して—

本センターは、佐賀県立シンクロトロン光応用研究施設事業を学術的立場から支援・協力するとともに、九州地域で唯一のシンクロトロン光応用研究に関する地域の中核的機能を果し、かつ最先端の学術研究教育を行う目的で設立されました。

佐賀大学は、シンクロトロン光による世界的な研究教育の推進、ならびに最先端の技術・手法・装置などの開発研究を通じて、将来を担う人材の教育・育成、未来技術の開発、知的資産の活用、新産業創出・産業高度化などの産官学連携拠点を目指しています。

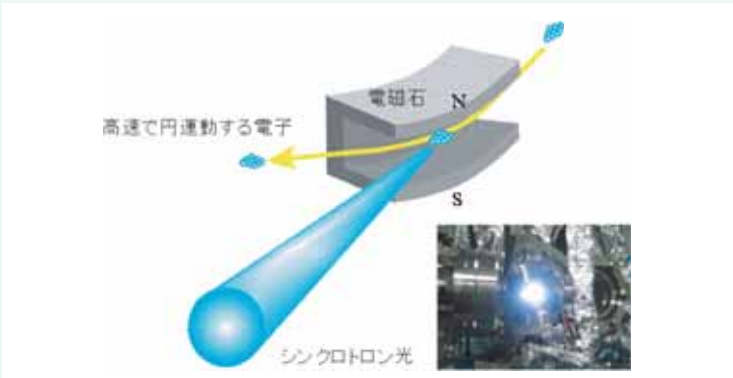
そのため、九州地域の国立大学法人との間で大学間連携協定を締結するとともに、九州大学から10名の流動教員の参画を得るなど、広く学内外の協力に基づくユニークなセンター運営・活動を行っています。また、本センターは、中国・韓国・露国・英国などの関連機関と協力協定を締結し、2年前に

上海支部を開設しました。

シンクロトロン光は、加速器が発生する人工の光であり、ほぼ光の速さで円運動する電子が発生する電磁波です。この光は、遠赤外線からX線までの広い波長の光をすべてカバーする地球上には存在しない紫外線からX線

の間の波長領域の光(真空紫外線や軟X線と呼ばれます)を発生する。太陽と比べて45桁倍も明るく、X線管と比べて510桁も輝く。指向性が極めて高い。試料を汚す心配のない清浄な光源である。百億分の一秒の時間幅を有するパルス光である。偏光性に優れているなど、多くの優れた特徴を有することから、夢の光と呼ばれ、21世紀の科学技術の発展に不可欠な光です。

本センターは、この夢の光を利用するナノスケール表面界面ダイナミクスビームラインという佐賀大学専用の実験装置を建設しました。また、佐賀県



シンクロトロン光は高速で運動する電子から発生する夢の光です。写真は2005年9月に佐賀大学ビームラインで初めて観測されたシンクロトロン光です。地球上に存在しない真空紫外線から軟X線など、科学技術にとって有用な光も発生していますが、人間の目では見ることが出来ません。

夢の光を用いた最先端科学技術の開発研究から新産業の創出と人材育成へ

シンクロトロン光応用研究センター
センター長

鎌田 雅夫

シンクロトロン光応用研究センター

と協力して県有ビームラインの設計・建設を行い、シンクロトロン光を利用する最先端の実験装置が整備され、平成18年から利用が開始されています。本センターは、「半導体と生命体を融合した環境・医用・エネルギー材料開発研究」をテーマに、ナノテクノロジー・バイオテクノロジー・環境・エネルギー材料・情報通信(ICT)などの21世紀の最先端科学技術の発展に貢献するとともに、大学の教育研究機能を核とする自治体との連携による知的センターを目指しています。

キャンパスから飛び出した教室！

はちがめサテライト教室



農学部助教授

そめ や たかし
染 谷 孝

佐賀大学地域貢献事業
「はちがめエココミねっと」
代表世話人



分析用の堆肥試料を採取しています

今年5月、伊万里市にある「NPO伊万里はちがめプラン」の事務所に隣接して、佐賀大学の「はちがめサテライト教室」が開設されました。これは、生ごみから堆肥を製造するなど様々な食資源循環運動を進めている伊万里地域の市民やNPOの取り組みを支援しながら、同時に教育に活用しようという「地域創成学生参画教育プログラム <http://net.pd.saga-u.ac.jp/sousei/>」の一環として建設されたものです。いわば、キャンパスから教室が飛び出し、地域の人々と学生がふれあう場所となり、互いに刺激し合い学びながら地域の問題解決に取り組むという、新しい形の教育プログラムの試みです。

はちがめサテライト教室では、NPOや一般市民、農家の方を講師にして学生が授業を受けるほか、隣接した堆肥化施設での見学や体験学習（実際に堆肥を作る）、廃食用油から自動車燃料（Bio Diesel Fuel, BDF）を製造するための理論学習と体験学習、生ごみを集めるために市民が設置した「生ごみステーション」の見学や聞き取り調査、生ごみ堆肥を使用している農家への聞き取り調査、その生産物の直売所の見学や経営状態の分析など、いろいろな現場体験型の教育のプログラムを展開しています。このプログラムには佐賀大学の17教科の授業が登録されていて、これらの活動に参加すると、単位になるしくみです。この中には、1年生向けの大学入門科目や全学年向けの主題科目のほかに、各学部で開講されている専門科目が含まれます。従って、学部や学年に見合った様々な教科で受講できますので、よかったら受講してください。

また、学部や大学院の研究の拠点としての活用も始まりました。はちがめ堆肥の微生物学的研究（農学部）はちがめ堆肥の除草効果（フィールドセンター）はちがめ堆肥から分離した腐植物質の生理活性（理工学部）生ごみを出す家庭での男女間格差と役割（文化教育学部）などの様々なテーマが追求されています。

このような授業に関係する活動だけではなく、ボランティア活動も育ってきています。例えば、堆肥化施設で人手不足の時に、学生たちが自発的に「ネコの手」のお手伝いをするなど（ネコの手も欲しい、というでしょう）学生たちの自主性が育っているのは、頼もしくも嬉しいことです。

教室がキャンパスから飛び出すことで、学生たちが、市民や農家の方、行政など様々な人々と交流する場面が生まれています。それが地域の方々への刺激ともなっています。今後の発展が楽しみです。



はちがめ教室での研修風景

生ごみステーションで解説する染谷助教授(左)



学食対決 本庄学食 VS 医学部学食



本庄地区学食

正門から入って突き当たりの大学生会館1階に、424人収容の「大学生協食堂」があります。ここには、丼物・めん類・カレー類・主菜や小鉢・サラダなど、1日80種類の豊富なメニューが揃っています。

最近の人気No.1メニューは「チキンのキムチソース」(207円)で、「手頃な価格でおいしい」と大評判です。

また、この「大学生協食堂」には、年間利用定期券「マイルカード」があります。これは、年間15万円で、1日千円まで朝昼夕、いつでも食事できるだけではなく、レジで読み込んだメニュー・栄養価のデータ・アドバイスが本人や保護者に毎月送られてくるもので、利用者にとっても喜ばれています。



本庄地区の学食を紹介してくれた、熊谷有希子さん(右)とそのお友達(「大学生協食堂」にて)

医学部地区学食

附属病院正面から西に向かい附属図書館を過ぎると、医学部会館「食堂」があります。その横には、バイキングのお店「天山」もあります。「食堂」は200人収容のホールで、カロリーを700Kcal以下に調整した「ヘルシー定食」や、インスタントを一切使用せず、牛骨・豚骨からとった「ガラスープ」を使った「特製ラーメン」などが人気です。

「天山」では、500円ポッキリでヘルシーバイキングが楽しめます。

地元で採れた旬の野菜を豊富に使い、また、大豆製品・いりこ・乳製品などを使って、ミネラル・カルシウム・ビタミン不足が解消できるような工夫がなされています。



医学部の学食を紹介してくれた、森永久美子さん(左から2番目)と友人の北村さん(右から2番目)、江川さん(右)たち(「天山」バイキングにて)



医食同源

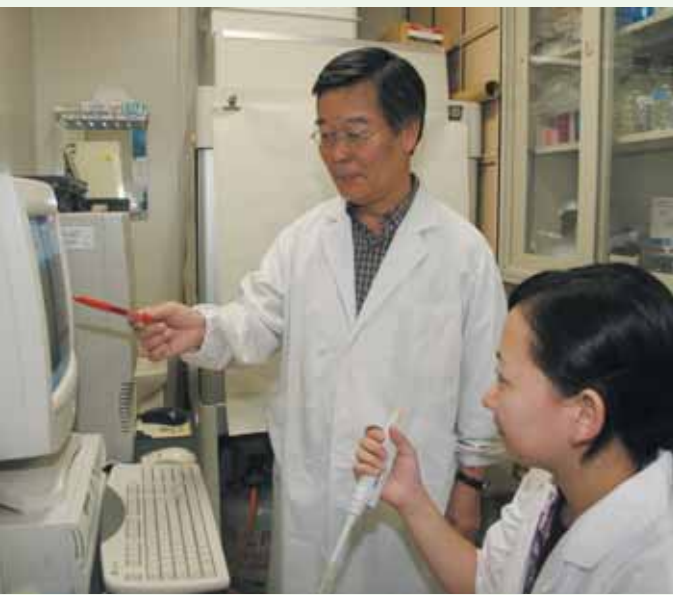
「治療の「医」も日常の「食」も健康のためには同じ源である」

農学部 教授
柳田晃良

柳田晃良



実験室で学生を指導している柳田教授(左)



健康長寿社会の構築を目指した医食同源の科学的解明(医食同源プロジェクト)

人が心身ともに健康で長生きするためにはバランスのとれた食生活・運動・ストレスのない生活が重要です。我々が日常の食材として利用する動植物には生体調節機能をもつ機能性成分が多く含まれています。食事をつまくとることにより、生活習慣病(がん・肥満・高血圧・アレルギー等)を予防したり(食養)、これらの病気を改善する(治療)ことが最近注目されています。

天然物中の化学成分に関する研究の歴史は長く、特に薬理活性の強い生薬等の薬用成分については多くの情報が得られています。しかし、我々が摂取する動植物食材については食品栄養学の研究が主であり、微量代謝成分の化学や機能性のメカニズムに関する科学的アプローチは未だ十分ではありません。医食同源とは、食材の選択や加工法に注目する処方医学的な考え方を基本とした概念ですので、総合的な科学的実証が求められています。

医も農も文系も、学部を横断したプロジェクト

平成17年度から本学研究プロジェクト学長経費学内重点配分経費により始まった本プロジェクトは「医食同源」の科学的エビデンスを確立し、それに基づく食生活・健康生活指導法を開発することを目標にしています。現在の研究班は医学部6名、農学部6名、文化教育学部2名、総合分析実験センター1名の教員で構成され、学部横断的協力体制で実施されていますので、研究領域をまたがる総合的なアプローチが可能になっています。具体的な研究内容としては、佐賀県の主要農産物である茶、大豆・褐藻類・タマネギなどの機能成分の探索と分子栄養学および臨床医学的なアプローチによる解析、さらにはアイスパラントのような佐賀大学ブランドの新しい食品素材の開発が行われており、すでに公開講演会や国際学術誌等で積極的に公表しています。また、食品の機能性メカニズムの解明に関しては、医学部で作成し

「食育」研究
―正しい食生活が心身の健康の源

た遺伝子組換えモデル動物も利用し、喘息・アトピー性皮膚炎等のアレルギー・肥満・動脈硬化・大腸癌などのいわゆる生活習慣病に対する機能性食品の生理効果を解析しています。

また、地域社会における食生活の改善指導、いわゆる「食育」研究のための疫学的調査も実施しています。このような研究は、地域とともに国際的な拡がりも重要ですので、佐賀県を基盤に九州のみならずアジアの研究者を巻き込んだグローバルな研究体制へ発展させるための仕掛けを現在作っています。

21世紀は健康の時代です。「フードファイナリズムに惑わされない科学的エビデンスに基づいた正しい食生活」が心身の健康の維持・増進や生活習慣病予防にとって重要なのです。

なお、本プロジェクトのこれまでの詳しい研究成果につきましては、以下のホームページをご覧ください。



プロジェクト HP: <http://www.biomol.med.saga-u.ac.jp/ishoku/index.html>

お世話になった農家の人や、旅の途中で出会った人たちに書いてもらったメッセージ入りの日本地図



農学部4年
の なか あつ ひろ
野 中 篤 弘

桜前線が九州に差し掛かる四月上旬、私の旅はスタートした。朝6時佐賀大学正門前を静かにスタート。目指すはるか北の大地北海道、桜前線とともに日本列島を北上し、紅葉前線と共に九州まで南下してくるおおまかな計画を立て、湧き出る興奮と少しの不安を抱えペダルを力強く踏み込んだ。

旅の目的は3つ、有機農業の現場を肌で体験すること、多くの人と話すこと、そしておいしいご飯を食べること。旅ではこの目的を同時に叶えてくれるWWOOF(ウーフ)という制度を活用した。簡単に言えばテレビで放送されている「田舎に泊まろう!」のような一宿一飯の制度、一日6時間程度農家で働き、その代わりにご飯と寝床を頂くというもの。とてもシンプルなものだ。

この制度を使い、石釜焼きのピザレストランから果樹農家・養鶏農家・トウモロコシ・ジャガイモ農家に炭焼き農家・自然食品店・環境教育機関まで多種多様な生産者のもとを訪ねてまわった。朝、太陽が昇ると同時に畑に立ち、陽が沈むと同時に作業を終える。農作業を終えると家族と共に夕食の支度に取り掛かる。冷えたビールのおつまみは畑から取ってきた枝豆にトマトにトウモロコシ、そして食卓には旬の野菜が並ぶ。太陽の下で目一杯、体を動かし汗を流し、畑からもぎたての旬の野菜を家族とテーブルを囲み一緒に食べる!これ以上ないご馳走である。

一般の人の農業に対するイメージは「汚い・臭い・きつい」の3Kではないだろうか。また一般の農家に話を聞くとそのほとんどは苦労話である。しかし、私の訪ねた農家は農業に恋をしていた。家族みんなで仕事ができることに感謝し、笑顔が正直で眩しい家族であった。苦しい時期を家族みんなで乗り越え、家族はお互いを信頼し、結束していた。そこに、家族の絆を感じる事ができた。

農家を巡り自転車「チャレンジ号」で日本縦断(佐賀～北海道・3600キロ) ～向かい風なんて大嫌い!～

私は旅を終えて、農家の方々对我的印象はガラリと変化した。人間の根源となる「食」を支える農業は最も尊敬できる仕事と思うようになり、農家の方々に感謝する気持ちが芽生えた。近年、お金を右から左に動かしお金を儲ける人に若者達は憧れ、多くの人は勝ち組・負け組を意識している。私はそんな風潮を虚しく思う。そんなこと以上にかっこいい仕事があり、汗を流し一つの物を作り上げる人がいる。私はそんな人を大切にしたい。価値組みに入りたい。

WWOOF日本HP:<http://www.woofjapan.com/>



神奈川県三浦にて 長葱を植えているところ



北海道積丹(しゃこたん)町のじゃがいも・とうもろこし・大豆農家でジャガイモの収穫中



山梨県上九一色村の富士山麓にて 畑の開墾の手伝い



北海道で稚内を目指してオロロンラインを走行中

来てみんなしゃい！佐賀大学へ

夏休みの小・中学生 700 人が大集合 !!

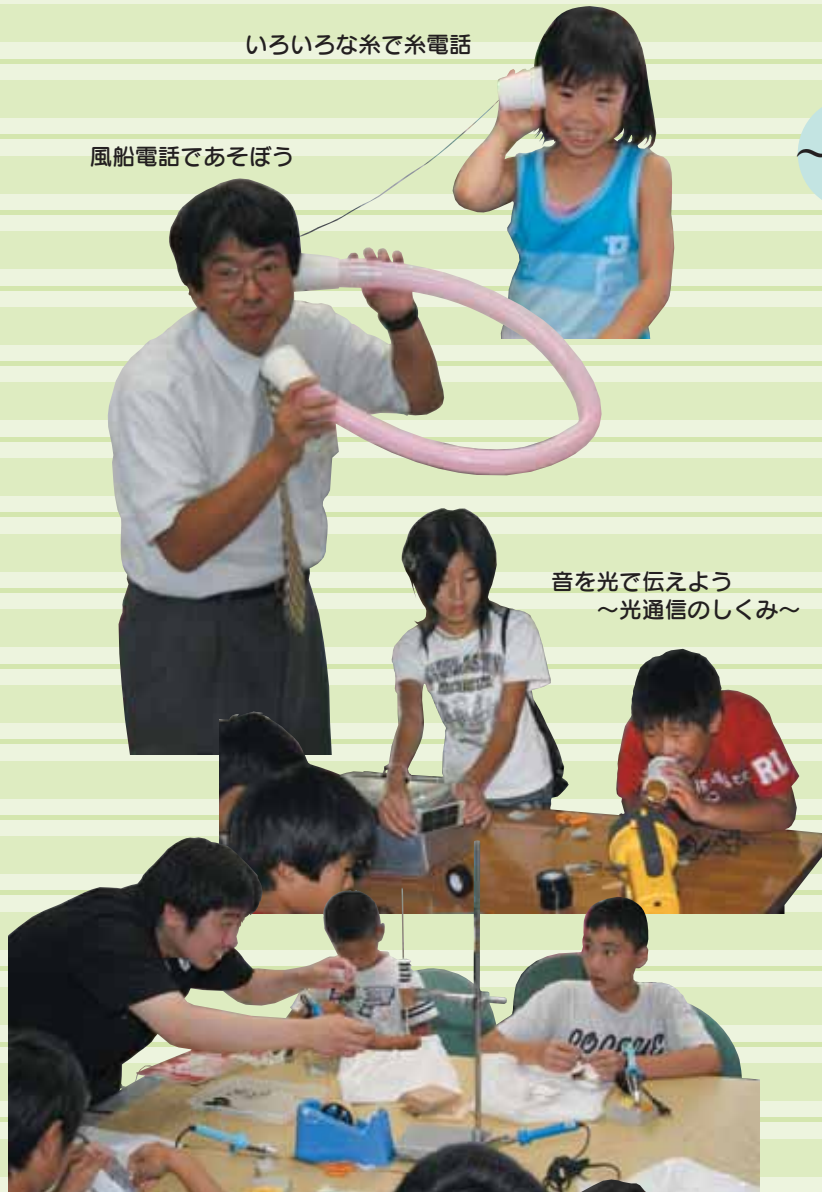
リフレッシュ理科教室を開催

日時 平成 18 年 8 月 3 日(木)
10:00 ~ 16:00

場所 アバンセ(佐賀市)

いろいろな糸で糸電話

風船電話であそぼう



音を光で伝えよう
～光通信のしくみ～

放送局の電波をつかまえよう
～超簡単ラジオ～

リード線を輪にして
音をきいてみよう

～理科離れ防止への小さな試み～

「子供の理科離れ」が叫ばれて久しい。この対策の一環として、平成 12 年から「リフレッシュ理科教室」を佐賀大学・応用物理学会主催で実施してきました。対象は佐賀県内の小・中学生で、体験型理科実験工作を行い、「理科に興味をもつ子供」を一人でも増やすのがねらいです。

「子供の目線に沿った理科実験」の実現のために、テーマの設定や実際の実験講師は小・中学校の先生方をお願いしました。今年は 7 回目となりましたが、参加希望の子供は毎年定員を超える応募があり、本年も定員 700 名に対して約 760 名の応募がありました。

このように本教室は年ごとに盛況となり、今では佐賀県民にすっかり定着してきました。今年のメインテーマは「通信の科学」とし、糸電話から光通信までの 8 つのテーマからなる体験型理科教室を行いました。

参加した生徒にはリピーターも多く、イキイキと工作や理科実験に取り組んでいました。

最近の調査によると、中学・高校に進むにつれて「理科離れ」が進んでいるが、小学生の 6 割以上は「理科好き」で、「意外と子供の理科離れは進んでいない」と実感しました。

理工学部電気電子工学科
藤田寛治 教授



今回の教室で、少しでも多くの「理科好き」の子供たちが育ってくれればと思っております。

「佐大生が創る佐大 HP」へぜひアクセスを！

「佐賀大学学生コミュニティサイト SAGAダイレクト」は、佐賀大学公式HPの「佐大生が創る佐大HP」にリンクを張っています。

大学祭や演奏会などの学内トピックから学生向けのアルバイト情報まで、幅広い情報を発信しています。

サークルの紹介や、夢に向かってがんばっている「燃える佐大生」、就職お役立ち情報満載の「就活ターミナル」など、佐大生のみならず佐大に関心を持っている受験生や佐賀大学をもっと知りたい方必見です。ぜひご利用ください。

URL : <http://www.sagadirect.net/>
 (SAGA DIRECT代表 理工学部2年 ほんだ しょうた 本田 祥太)

国立大学法人佐賀大学の役職員の報酬・給与等について(概要)

国立大学法人佐賀大学では、役員の報酬等及び職員の給与の水準を公表しております。公表内容につきましては、「佐賀大学ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp>」をご覧くださいか、または、人事課給与管理係で文書資料を用意しておりますので、ご連絡ください。(TEL0952-28-8125) なお、公表内容の概要は次のとおりです。

- 1. 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標
- 2. 総人件費について

事務・技術職員	
対国家公務員(行政職(一))	82.4
対他の国立大学法人等(事務・技術職員)	95.8
教育職員(大学教員)	
対国家公務員(平成15年度の教育職(一))	97.9
対他の国立大学法人等(教育職員(大学教員))	96.6
医療職員(病院看護師)	
対国家公務員(医療職(三))	99.9
対他の国立大学法人等(医療職員(病院看護師))	102.8

区分	当年度 (平成17年度)	前年度 (平成16年度)	比較増△減	中期目標期間 開始時 (平成16年度) からの増△減
給与・報酬等支給総額 (A)	千円 11,485,567	千円 11,414,338	千円 71,229 (%) (0.6)	千円 71,229 (%) (0.6)
退職手当支給額 (B)	千円 736,563	千円 847,957	千円 △111,394 (%) (△13.1)	千円 △111,394 (%) (△13.1)
非常勤役員等給与 (C)	千円 1,609,248	千円 1,453,502	千円 155,746 (%) (10.7)	千円 155,746 (%) (10.7)
福利厚生費 (D)	千円 1,652,818	千円 1,612,508	千円 40,310 (%) (2.5)	千円 40,310 (%) (2.5)
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 15,484,196	千円 15,328,305	千円 155,891 (%) (1.0)	千円 155,891 (%) (1.0)

注1: 当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(対他の国立大学法人等)においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現在支給している給与から算出される指数をいい、人事院において算出
 注2: 教育職員(大学教員)の対国家公務員の指数は、比較対象の国家公務員が少数のため、国立大学法人等の法人化直前(平成15年度)の教育職俸給表(一)適用職員の給与水準を国の給与水準として算出

注: 「非常勤役員等給与」においては、受託研究費により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用を含んでいるため、当法人の財務諸表「附属明細書」の「17 役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

編集後記

大学の研究センターといえば、たいていは理系の分野です。しかし、本号の特集として紹介した、佐賀大学地域学歴史文化研究センターは、佐賀の持つ歴史を調査分析することを目指した文系の研究センターです。佐賀学の拠点として、県内はもとより、県外からも期待が寄せられています。

さらに、このセンターが話題となっているのは、そのセンターが入る建物が、大正時代に、佐賀大学の前身となっている旧制佐高のときの外国人教師のために建てられた洋館を学内に移築したということ。そのころ建てられた洋館として建築上も貴重で、佐賀の歴史を探究するセンターの拠点としては、うってつけの建物と言えます。

この洋館の愛称を、公募の結果、菊楠(きくす)ライパー館と決めました。佐賀の県木である「楠」、旧制佐高同窓会菊葉の「菊」、そしてその館に長年住んでおられたシュライパー先生のお名前が組み合わされたものです。研究のみならず、地域に愛される建物として、佐賀大学の新たなシンボルになることでしょう。

(広報室長 早瀬 博範)

佐賀大学剣道部

佐賀大学剣道部主将
 北 上 順 公
きた かみ ます のき
 (文化教育学部4年)

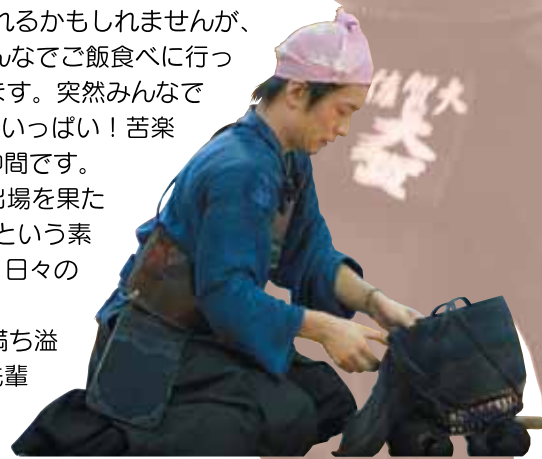
佐賀大学剣道部は、昨年、創部50周年を迎えた歴史と伝統のある部です。現在では男子32名、女子15名の計47名が、芹田壽彦先生はじめ、多くの諸先輩方の教えを引き継いで活動しています。

「剣道は人間形成の道である」という言葉もあるように、夏のとろけそうなほど暑い日も、また冬の凍えそうなほど寒い日も、互いに厳しく、共に助け合いながら切磋琢磨しています。毎日の稽古はなかなかハードですが、みんな、授業・バイト等時間をうまくやりくりして部活動に取り組んでいます。また、春・夏に合宿を行ったり、多くの試合・審判等に参加したりすることで、自分たちの剣道を伸ばそうとしています。

稽古のことばかり言うと、佐賀大学剣道部は厳しい部活のように感じられるかもしれませんが、厳しさと同時にそれ以上の楽しさも兼ね備えています。稽古以外では、みんなでご飯食へに行ったり、飲みに行ったり、遊びに行ったり…、と仲良くワイワイ楽しんでいます。突然みんなでどんぐり村に出かけたり、BBQしたり、かき氷したり…、楽しい思い出もいっぱい！苦楽を共にしているので、部員一同とても仲良く、互いを分かり合った最高の仲間です。

成績としては、昨年、一昨年と、男女とも全日本学生剣道優勝大会への出場を果たしています。5月に行われた西日本学生剣道大会で、女子団体が3位入賞という素晴らしい結果も残せました。今は、男女とも3年連続全日本出場を目標に、日々の稽古に励んでいます。

最近では、道場が部員でいっぱいになるほどに人数も増え、毎日活気に満ち溢れた稽古ができています。また、お忙しいにもかかわらず、多くの先生・先輩方に稽古に来ていただき、指導していただいています。感謝の心を忘れず、今後の稽古に励みたいと思います。



医学部剣道部

医学部剣道部主将
 松 本 圭 一 郎
まつもと けいちろう
 (医学科4年)



医学部剣道部は現在、男女合わせて12名が毎週月・水・金の4時半から、1時間から1時間半程活動をしています。年に3つ大きな大会があり、春の九州・山口医科学生体育大会(医師薬学部ともに出場可、通称九山)、夏の西日本医科学生総合体育大会(医学科のみ、通称西医体)、西日本メディカル学生剣道大会(医学部看護科、歯薬学部のみ)

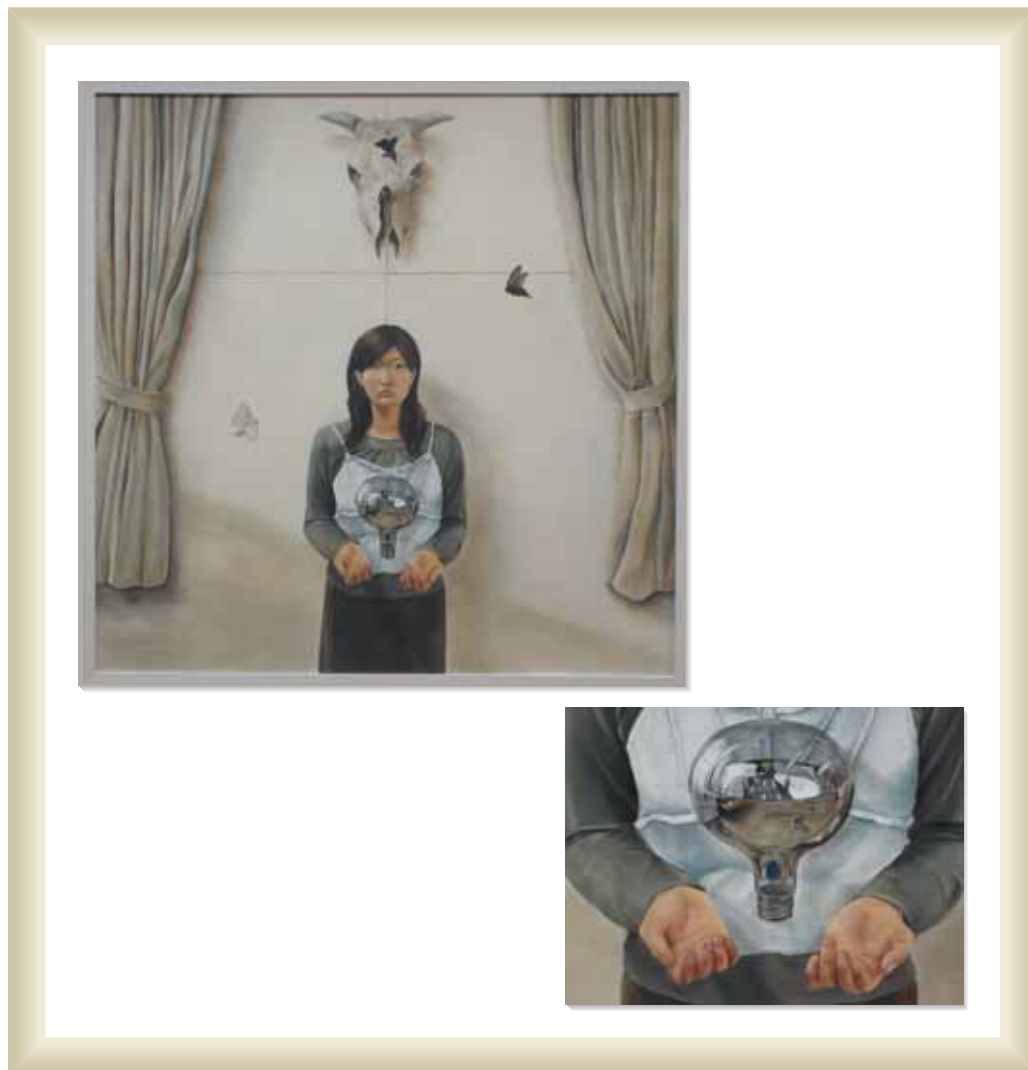
での優勝を目標に日々練習に励んでいます。さらに、一般の試合に参加することも出来、昇段審査を受けることも可能なので、段位を向上させ、練習に生かしている人もいます。また、他大学剣道部との交流も盛んで、練習試合を行い、飲み会に参加して剣道技術の向上だけでなく、情報交換や、多くの友人形成の場としてもとても有意義です。今年は看護科の部員がいないため、医学部の大会出場のみと非常に寂しい状況です。初心者でも大歓迎ですので、見学・参加をお待ちしています。

また、毎年春には新入生歓迎会を行っており、その他にも飲み会や夏には花火をしたり、冬には鍋なども企画して、部員全員が楽しくまとまっています。顧問の先生やOB・OGの方々も多数参加をして、これからの学生生活や卒業後の進路などに熱心に耳を傾けてもらえるので、とても充実した学生生活を送っています。



作品名 「例えれば相反の中で見つけた閃きのような物」

よねむら たいち 米村 太一 (文化教育学部美術・工芸課程3年・西洋画専攻)
(2006年度佐賀美術協会展にて鍋島報効会賞を受賞)



【作者プロフィール】

1985年熊本県生まれ。現在、文化教育学部美術・工芸課程3年次在籍。
西洋画を専攻。

【作者コメント】

ふと生ける者が死に逝く者を追憶したり、ふと光の中にできる自分の影を見つめてみたり。それを幸せに感じることは人間の魅力の一つであろう。

時間に急かされることのない心のゆとりを大切にしたい。そんな思いが表現できた作品となっていれば幸いである。

